

探究 ひとを想い
先駆する青年たれ

一般社団法人 和歌山青年会議所

www.wakayama-jc.net

Report

2019年8月10日(土) 四季の郷公園

パワーオブワカヤマ～#マチノアカリ～

ひととひとを結ぶまちづくり委員会 委員長 瀧本拓起

2019年8月10日(土)、本年度のまちづくり事業である「パワーオブワカヤマ～#マチノアカリ～」を和歌山市の四季の郷公園にて開催いたしました。

本事業はひととひとを結ぶ架け橋となるべく行政・和歌山市で活動される諸団体など、多くの人々と構築する事業でした。

開催場所である四季の郷公園の2020年リニューアルに向けた認知度向上とともに、地域資源の活用や、地域の人たちの活動を周知する方法を共に考え、意見を交換し、構築していく過程では多くの困難がありましたが、山路理事長が掲げる「探究」を続けることで互いを理解する機会となりました。

今回共に手をとって事業を行いました、四季の郷公園を

中心に活動されている「山東まちづくり会」様、和歌山市で日本と台湾の架け橋となる活動をされている「和歌山日台交流協会」様、自然での活動を通して育成活動をされている「ボーイスカウト和歌山地区協議会」様、それぞれの魅力が最大限に発揮された本事業は想像を超えるほどの大盛況となり、訪れた市民の皆様の笑顔が溢れるとともに、和歌山にもこんな素敵な場所があるということを知っていただけたと思います。

また、和歌山青年会議所メンバーのまちを想う行動が、多くの笑顔につながったと確信しております。最後になりますが「パワーオブワカヤマ」への多大なるご協力ありがとうございました。



山路理事長の挨拶



整理券配布には長蛇の列が！



四季の郷公園は緑に囲まれています



竹燈夜とのコラボは大成功です



カラフルなライトアップ



竹燈夜も同時開催でした

2019年8月10日(土) 四季の郷公園

パワーオブワカヤマ～#マチノアカリ～

ひととひとを結ぶまちづくり委員会 委員長 瀧本拓起



手作業でローソクを入れていきます



会場案内



OBも家族を連れて来てくれました



ランタンの中身はLEDライトです



メンバーで協力して事業に臨みます



ランタンにヘリウムガスを注入



竹の中にもローソクが入ってます



幻想的な光景に多くの人が魅了されました



400個のランタンが宙を舞いました

8月定時総会

総務委員会 委員 前田真吾

2019年8月27日(火)、ホテルグランヴィア和歌山において8月定時総会を開催いたしました。

新入会員を含む現役会員76名と特別会員2名が出席し、2019年度補正予算と2020年度役員等予定者が全会一致で可決されました。松下理事長予定者より、2020年度のスローガンと想いが発表され、次年度の新体制を会員に伝える場となりました。

また新たな成長を求める新メンバーが集い、厳粛な雰囲気の中、入会式が行われ、山路理事長から新入会員に向けて歓迎と激励の言葉が贈られました。志高い新たなメンバーが加わり、2019年度前半の勢いを緩めることなく後半を駆け抜け、2020年度へとつなげるべく、会員全員の意思を固める場となりました。



山路理事長の挨拶



会員拡大委員会玉置委員長の挨拶



松下理事長予定者の意見表明



新入会員の代表挨拶



新入会員へのバッジ授与



議決の様子



選任された次年度理事たち

8月定時総会懇親会

例会委員会 委員 片山雄介

2019年8月27日(火)、ホテルグランヴィア和歌山にて開催されました8月定時総会の入会式にて22人の新入会員を和歌山青年会議所に迎え入れました。総会に引き続いて開催された懇親会では新入会員のみなさんにスピーチを披露していただき、その人となりを知ることができました。歓談の時間では新入会員と現役会員が積極的に名刺交換や歓談で交流し、会場は大きな賑わいを見せまし

た。8月定時総会では緊張された新入会員もおられたかと思いますが、懇親会ではリラックスし、新入会員同士で楽しげに語り、また現役会員とも歓談し、和歌山青年会議所の楽しげな雰囲気を感じていただくことができ、有意義な懇親会となりました。ご参加いただいた皆様に感謝いたします。ありがとうございました。



水野顧問による新入会員に向けた激励のメッセージ



次年度に向けた松下理事長予定者の挨拶



咲間副理事長



新入会員のスピーチ



山路理事長の挨拶に聞き入る参加者たち



会場の様子



歓談の様子

新入会員紹介



赤井 雄輝

昭和62年10月17日
Rich電設
(電工)



阿部 健次

昭和59年2月7日
アベペン
(塗装業)



生馬 悟

昭和58年5月25日
キャラバンズ・カフェ
(飲食業)



石本 奈穂

昭和61年8月24日
dezon
(飲食業)



宇野 紘一郎

昭和57年7月31日
Fire works
(写真・ビデオ関連)



大谷 龍児

昭和63年6月8日
ホンシュー包装株式会社
(卸売業)



岡本 鉄平

昭和58年7月16日
株式会社サンブレスト
(福祉事業・施設)



佐藤 匠

平成2年2月14日
AIG損害保険株式会社
(保険業)



武内 淳

昭和58年8月27日
水辺座
(飲食業)



竹田 直道

昭和59年12月8日
一般社団法人Shake Hands
(農業)



辻本 直史

昭和59年10月10日
辻本左官
(建設業)



土谷 尚之

昭和59年8月29日
串揚げ一丁 土谷
(飲食業)



長井 禄宗

昭和58年5月14日
居酒屋 YOSHIMUNE
(飲食業)



中野 庸

昭和62年11月17日
駆除屋
(害虫駆除業)



橋崎 良佑

昭和62年12月24日
骨盤整体 nico
(整骨・マッサージ業)



林 翔平

昭和61年12月29日
紀の国住宅 株式会社
(木造建築業)



櫃本 奈美子

昭和61年11月26日
Fair way
(飲食業)



矢澤 貴文

平成3年12月12日
株式会社 リアン
(広告・宣伝業)



山田 直輝

昭和63年5月24日
meat up ~ eating house ~
(飲食業)



山田 泰也

昭和58年5月19日
山建
(建設業)



山中 敏生

昭和59年7月29日
和歌山市議会議員
(一般行政)



弓庭 隆太

昭和59年7月21日
弓庭シール
(建設業)

出向者報告

近畿地区協議会ディスカバリー推進委員会 委員 松下正典

公益社団法人日本青年会議所近畿地区協議会ディスカバリー推進委員会では、近畿地区内のブロック協議会と連携した会員拡大運動や、新産業創出を育成する事業の実施を行っています。私は和歌山ブロック協議会副会長を拝命し、担いの中に会員拡大があるからこそ、和歌山ブロック協議会側の出向者として、ディスカバリー推進委員会に出向し

会員拡大の現状報告などを行ってきました。この5年で和歌山県全体の会員数が激減している現状だからこそ、会員拡大の重要性を和歌山県内の会員会議所に伝え意識向上を図るとともに、会員の拡大の手法などを伝えてきました。これからは新産業創出を育成する事業に努めてまいりますので、今後ともご協力お願いします。

近畿地区協議会幸せな近畿確立委員会 委員 岡本哲和

私はまだ和歌山青年会議所入会二年目であり、出向というものの自体に関して右も左もわからないままの状態、気づけば幸せな近畿確立委員会メンバーとして在籍しておりました。正直な所、一緒に出向したメンバーが同期で話しやすい方であったため、たまに顔出そうというくらいの気持ちでいました。

そしていざ小委員会に参加するようになり、近畿地区大会亀岡大会の大会式典の司会という大役を仰せつかりました。この時も一緒に司会をする方がもう1人おり、それならばという程度の気持ちでした。

このように適当な調子で出席していた私ではございましたが、準備を進めていくうちに気づけば楽しくなってきました。今となれば式典が終了したことにスッキリした気持ち

とともに寂しく思う気持ちが大半を占めております。

基本的に私は、遊び以外でやる気を起こすことがあまりできない人間ですが、気づけば司会の練習に没頭している自分がいました。見た目からはそこまで真面目に見えなかったかもしれませんが、私からすれば今までに無いほど真剣であったと思います。

この事業を皆様と共にしたことで、目に見えた利益があるわけではありません。ですが、何かとても大事なものを得られた気が致します。そんな気持ちになることができたのは、委員長をはじめとするメンバー皆様のおかげでございます。初めての出向先にて居心地の良い空間を作っていた皆様へ心より感謝です。ありがとうございました。

近畿地区協議会 国土強靱化委員会 副委員長 今村哲朗

近年日本で起こり得る災害として、台風・地震・噴火など様々なものが挙げられます。また、地域によって自然状況などの災害リスクが異なります。そこで地域の実情に応じ、住民同士での防災に関する情報共有が必要となります。そのために、実際に災害が発生した場合、同じような被害にあわないようにするために、地域同士で紳士協定を締結したり、自治体や社協に企業等をマッチングするための災害リスクヘッジ会議を計画・実施いたしました。

会議は3月に和歌山、5月に兵庫、7月は滋賀にて開催し、積極的な広報活動の結果、多くの企業に参加していただくことができました。参加企業からは、マッチングの機会を大変喜んでいただけたようであり、大変意義深い事業であると感じました。また、本年度提案したLINEを活用した情報共有の仕組みは単年度で終わらず、継続していただけるようにしておりますので、今後の防災事業に役立てていただければと思います。

公益社団法人日本青年会議所 国際アカデミー委員会 委員 松田紗世

国際アカデミー委員会とは、その名の通り国際アカデミーの開催を主幹する委員会です。

国際アカデミーは、JCI公認プログラムとなっており、世界中で活躍できるリーダーの育成と連携の機会を創出する目的で毎年日本にて開催しております。先月号でも報告書を掲載しましたが、7月開催の第32回国際アカデ

ミーin軽井沢は、鎌田会頭からも「ベストアカデミー」であるとお言葉を頂戴し、参加したデリゲイツの自己成長度100%を達成しました。今年度の結果をふまえ、これからも恒久的世界平和の実現に向け、グローバルリーダーとなるJAYCEEの育成へと引き継いでまいります。

公益社団法人日本青年会議所 国土強靱化委員会 会計幹事 毛満勝彦

当委員会では、国土強靱化に対する取組みとして、ドリームミーティング、逃げ地図、サマーコンファレンスにおけるブース出展、災害時の情報発信を行いました。

全地区で行ったドリームミーティングでは、民間提案制度を活用し、地域の課題を有識者や学生と一緒に検討しました。逃げ地図事業では、災害が発生した時にどのように避難するのかを地域住民の方々と一緒に考える事業を全国各地で開催し、書籍も出版されることとなりました。サマー

コンファレンスにおけるブース出展では災害時にどういった対応をするのか、自助と共助についてのクイズを出題しました。子供から大人までの幅広い層に防災についての知識を提供し、意識を高める機会になりました。災害時の情報発信では地震や台風が発生した時にメーリングリストに情報を発信することで青年会議所としての情報共有をできました。

10月度告知

香港沙田青年商會公式訪問団受入

2019年10月4日(金)～10月6日(日)

姉妹締結を行って27年目となる香港沙田青年商會のメンバーが10月4日から10月6日までの日程で和歌山へ公式訪問に訪れます。本年度はパディ制を取り入れ、全メンバーが沙田メンバーと共に行動します。異文化交流をする中で様々な価値観にふれ、違いを受け入れお互いが分かり合い成長する絶好の機会となります。皆様の積極的なご参加を是非お待ちしております。

(国際交流委員会 副委員長 松田紗世)

第68回全国大会富山大会

富山

2019年10月10日(木)～13日(日)

第68回全国大会富山大会が10月10日(木)～10月13日(日)に富山にて開催されます。卒業生の想いを次世代へと引き継ぐために、多くの現役メンバーで参加し、今後の運動が大輪の花を咲かせる一助になると思っております。皆さまぜひご参加ください。

(地区大会準備委員会 委員長 田邊 武)

全国大会LOMナイト

えん家

2019年10月12日(土) 21時

第68回全国大会富山大会が10月10日(木)から10月13日(日)の日程で開催されます。つきましては、LOMナイトを10月12日(土)21時より「えん家」にて行います。北陸の地で、海の幸を堪能していただき、多くの現役メンバーで卒業生をおもてなししたいと思います。皆様ぜひご参加くださいようお願いいたします。

(地区大会準備委員会 委員長 田邊 武)

シニア・クラブとの合同例会・懇親会

ダイワロイネットホテル和歌山4階ブリエ(懇親会4階グラン)

2019年10月18日(金) 19時(懇親会21時)

特別会員の皆様と現役会員の交流、そして2020年度近畿地区大会和歌山大会に向けて合同例会としてディスカッション形式の講演会を開催させていただきます。

講師には2014年度近畿地区大会白浜田辺大会を主管された公益社団法人白浜・田辺青年会議所の2014年度理事長早稲田好則先輩、2014年度副理事長(実行委員長)山本梯士先輩をお招きして、『近畿地区大会を成功へと導くために』と題してお話いただきます。

また合同例会終了後にはシニア・クラブとの懇親会も企画しておりますので、奮ってのご参加をお願いいたします。

(地区大会準備委員会 委員長 田邊 武)

10月 スケジュール

4	金		
5	土	香港沙田青年商會公式訪問団受入	和歌山市
6	日		
7	月	第19回財政規則審査会議	事務局
9	水	第20回三役会	株式会社ナルセ
10	木	全国大会	富山
11	金		
12	土	全国大会LOMナイト	えん家(金沢)
13	日	全国大会	富山
15	火	理事会	和歌山商工会議所
18	金	例会	中央コミュニティセンター
21	月	近畿地区正副会長会議	葛城
22	火	近畿地区役員会議	葛城
23	水	第20回財政規則審査会議	事務局
25	金	第21回三役会	株式会社ナルセ
28	月	委員長会議	あいあいセンター

事務局だより



組織・役職変更

特別会員 阪口大祐 先輩

阪口エンジニアリングから株式会社阪口エンジニアリング
代表取締役役に就任

わとらんが行く！和歌山市が誇る企業の現場 「智辯和歌山野球部」編(前編)

取材協力：智辯学園和歌山高等学校野球部監督 中谷 仁 様

1 野球にかけた人生

高校生の時は自分がプロ野球の世界に入ることができるとは思っておらず、大学に進んでから社会人野球を何年かやり、母校で監督として戻って来ることができれば最高だ、ということのひとつの夢として思っていました。ところが、97年・高校3年生のときにキャプテンを務めたチームが夏の甲子園大会で優勝し、選手としてプロにチャレンジするという可能性が現実味を帯びてくるようになりました。プロ野球選手になるということは野球人であれば誰もが憧れる夢です。思い悩んだ結果、そちらの夢に挑戦することを選び、ありがたいことに阪神からドラフト1位で指名していただきまして、プロ野球の世界に足を踏み入れることができました。

ところが、やはりプロの世界は厳しく、なかなか結果を出すことができない状況が続きました。そんな折、事故で眼を負傷してしまい、野球を続けられるかも分からないようになってしまいました。先代の藤田照清理事長からは「学校に指導者として帰ってこい。」という声を掛けていただきましたが、そのときは球団から「選手として諦めるな。」というありがたい声を掛けていただいてもおりましたので、「まだまだ選手を辞めるわけにはいかない、ここで帰るわけにはいかない。」という想いが強く、クビだと言われるまでは選手を続けることにしました。その後も楽天に移籍するときなど、折に触れて学校からは声をかけていただいておりますが、30歳くらいになるころにはそういう声もかからなくなっていきました。

12年に現役を引退した後は、大阪の私設の野球教室にスタッフとして所属し、いろんなチームから依頼を受けて指導に赴くという形で野球指導に携わるようになりました。指導を続ける中で、プロ野球選手として一流とはいえない自分が経験や感覚だけを頼りに野球という難しいスポーツを教える本当に大丈夫なのか、と考えるようになり、体の仕組みも理解することで指導に説得力を持たせようと考えて柔道整復師の資格取得を目指してそのための専門学校に通っていました。そうしているうちに恩師である高嶋仁監督から連絡がありました。「野球部がとんでもないことになっている。甲子園にも行けない。なんともならん。」とのことで、学校に呼び出されました。今の藤田清司理事長ともお話しをし、コーチとして戻ってきて欲しい、野球部を助けて欲しいと誘われました。

このときは本当に悩みました。高校野球のコーチ・監督になると常に選手たちと向き合っていなければならない、自分の時間はほとんどなくなってしまいます。その他にも様々な不安要素が数多くありました。ですが、結果として引き受けることにしました。自分がプロ野球にチャレンジすることができたのは、高校時代のチームメイト、高嶋先生、先代の理事長、いろいろな方のおかげです。智辯和歌山野球部は自分の野球人としての原点というべきところであり、その野球部が危機的な状況になっている。自分たちの誇れる存在であった野球部が弱くなっているところは見たくない。98年にプロ野球選手になってから16年間、野球のことしか知らず、野球に人生のすべてをかけてきました。現役を引退した時点で中谷仁という野球人の人生は終わっています。ここからはもう自分の人生ではないという想いを持って引き受けることにしました。

17年4月にコーチに就任し、18年8月の甲子園大会が終わってから監督に就任しました。実際に戻ってきてからも、



想像していたとおり、あるいはそれ以上に大変な状況ではあります。幸いにして私がコーチとして戻ってきた以降は全ての甲子園大会に出場することができておりますので、まだがんばることができますが、出場を逃したりするととてもない疲労感に襲われるだろうと正直思います。ですが、「日本一になりたい！」という子どもたちのキラキラした目を見てみると、とてもやめられません。そういう想いで日々を過ごしています。

2 智辯和歌山野球部の危機

高嶋前監督はとにかく野球が好き、甲子園が好き、勝つことが好き、そういう方です。「好き」と簡単に言いますが、そのレベルが異質です。誰にも負けない勝利への執着心を持っておられ、ありあまる情熱を選手にぶつけます。選手もその情熱に応え、監督と選手とがぶつかり合い、命がけで野球に取り組む。私が高校生のときはそういうピリピリとした空気の中で過ごしていました。

私設の野球教室に所属していたときに、いろいろな高校に呼ばれて指導に行くことがありましたが、結果を出している高校というのは同じようなピリピリ感が漂っています。奈良の智辯学園が16年春の甲子園で優勝する前後の時期に指導に呼ばれたことがあります。同じような空気感が出ていました。選手一人ひとりの礼儀や挨拶もきちんとできており、いかにも高校球児だなという好感を持つことができました。指導にあたって、選手たちの方からアドバイスを求めている積極性があり、やはり強いところは違うという印象を持ちました。

ところが、私が戻ってくるころの智辯和歌山では奈良と練習内容にはさほど違いがないのに、そういうピリピリした空気はありませんでした。挨拶は「ちゅーす」という緩い感じでしたし、積極性も感じられません。それどころか、私から「今のプレーはどういうつもりでやったんだ？」などと問いかけているのに「はい」とか「いいえ」といった答えになっていない返事が返ってきて会話にならず、選手が何を考えているのかが分からない、そんな状況でした。(後編に続く)



編集・発行

一般社団法人 和歌山青年会議所

和歌山市西丁丁36番地(和歌山商工会議所5F)
TEL.073-428-3334(代) FAX.073-431-1693
URL : <http://www.wakayama-jc.net>
mail : office@wakayama-jc.net



Junior Chamber International Wakayama